

# 大人になるための勉強

今朝の中日新聞に、興味深い見出しの記事をみつけました。

「虎が登場する名作」 『山月記』の魅力は？」

『山月記』は高校時代に読みました。高校の国語教科書に二百六十回以上掲載された名作ですが、私は確か、高校時代の担任から薦められて文庫本で読んだと記憶しています。話の内容もしっかり覚えています。担任がなぜ薦めたか、今ではわかる気がします。

『山月記』は、文庫本のページ数にして十ページの短い話です。中国の唐の時代に詩人を志した男が大成できず、苦悩の末に発狂して虎になってしまいう話です。これだけ聞くと、ありえない話で面白くないと思う人もいるかもしれませんがね。でも、男が虎になって語った中身が大切です。高校の国語の教科書に掲載される話ですので、そこには確かな価値があるのです。

記事の中に高校の国語の教師を約二十年間勤め、その後、作家になった方のコメントが載っていました。

「若いころに理想を抱いても現実にぶつかって自尊心が傷つく物語には、多くの人が共感する。高校生もテストの点数や進路に悩むなどし、だれもが大人になる過程で思うようになるのではない悲しみを抱える。そうした若者の心に入りやすい『青春の文学』なのです。」

これが、私の高校の時代の担任が『山月記』を読むように薦めた理由だと思っています。「成績を上げたい」「〇〇大学に進学したい」「〇〇の仕事に就きたい」など、多くの理想を抱いている青春時代に、思い通りにならないことはだれにもあるものです。担任はそういう時の心もちを、『山月記』で私たちに伝えたかったです。高校の教科書に掲載されている理由も、そこにあると言えます。

こう考えると、昨日書いた三人を切りつけた高二の少年は、こういう文学に触れていなかったのかなと思えてしまいます。触れていれば、思い通りにならないことがあった時のクッションになって、悲しい出来事には発展しなかったのではないか。東大医学部に入るための勉強の一方で、大人になるために挫折を乗り越える勉強もする必要がありますが、あったのではないかと私は勝手に考えています。

昨日今日と、三年生の最後の期末テストが実施されました。朝読書の時の三年生の様子を見ると、テスト当日でもしっかりと読書に取り組んでいました。成績が気になるでしょうが、大人になるための勉強に取り組んでいる姿に、私は大変うれしくなりました。

『山月記』は高校の教科書に掲載される話だから、高校生になつてから、と思ってしまう。しかし、北中のラーニングコモンズにもありましたよ。表紙も私の読んだものとはずいぶん違っています。ということは、中学生が読んでみてもよいということですね。ぜひチャレンジしてみてくださいね。

(一月十八日記)

